

求む、高き志と熱意——杉並師範館

杉並師範館 塾長

山村弘

人が人を育てるといふ人間社会で最も尊い営み。そこそが教育であり、その真髄を支えるのがまさしく教師です。

「杉並師範館」は、「教育は人なり」を信条とし、熱意あふれる教師を地域で責任をもって養成していくための教師養成塾として設立されたものであり、単なる教育技術を教える学校ではありません。

杉並区では従来から現役教員の育成に熱心に取り組んできましたが、せっかく育成をしても、数年後には多くの教員が他区市町村に異動してしまうなど、人事権がないことにジレンマを感じていました。そこで、中央教育審議会による人事権の市町村等への移譲の答申を受け、国や都にアピールする意味も含め、また市町村立学校職員給与負担法の改正もあいまって、平成十八年四月に、区市町村レベルでは全国に先駆けて、「杉並師範館」を設立し、教員の独自養成、独自採用の取り組みを始めました。この制度は、養成と採用が一体となったものであり、杉並区の独自教員となるには、当館で一年間塾生として勉強し、当館を卒業することが要件となっています（※）。

■杉並師範館設立の理念

杉並師範館は、杉並区と協定を結び教員養成を行っている任意団体であり、民間の第一線で活躍されている方々に当館の理事や講義・演習の講師などで力をお借りして、行政とはまた違った見地から運営を進めています。理念については、当館の設立趣意書でも謳っていますが、日本の教育の現状を考えるに「気高い精神と卓越した指導力をもった教師の育成」こそが重要と考え、単に知識・指導力を高めていくだけでなく、子どもたち一人ひとりの可能性を見出し、引き出すことのできる高き志と熱意をもった人間力豊かな教師を育成することを目指しています。またこのことを通じて、現在の公教育に一石を投じていきたいと考えています。全国の多くの自治体で教員養成事業がスタートしていることは、杉並区の考え方が全国に広がりつつあることと感じます。なお、小学校教員の養成を行っているのは、人格形成において最も重要な時期が小学生時代であると考えからです。

■杉並師範館の現況

平成十九年四月に一期生17名が杉並区教育委員会に採用され、現在三期生まで延べ68名が杉並

区立小学校の教壇に立っています。また現在、第四期生29名が修業中です。当館の卒業生は、東京都採用教員の定数に加えて、杉並区独自に採用しているものであり、これにより30人程度学級の実現や、特色ある学校づくりに寄与しています。当館入塾選抜試験の倍率は、一期生・二期生は七倍前後、三期生・四期生は五倍前後で推移しており、首都圏の多くの自治体において、小学校教員採用試験の倍率が二倍から三倍前後であることを考えると、多くの教員志望者から支持されていることがわかります。

■杉並師範館の教育内容

- 教師心得（教師五則）
- 一 教師は、子どもの「学ぶ意欲」を引き出す。
学ぶ意欲とは生きる意欲である。
 - 二 教師は、子どもの「人間性」をはぐくむ。
人間性とは人間ならではの真心である。
 - 三 教師は、子どもの「社会性」を養う。
社会性とは他者に対する配慮である。
 - 四 教師は、子どもの「規範」を確立する。
規範とは決断し断行する基である。
 - 五 教師は、子どもの「資質の芽」を見つけ、認め、伸ばす。
資質とは全人格的人間力である。

これは、高い志をもって教師を目指す塾生が、常に心に留めてほしい教師心得の五ヶ条です。当館で学んだ教師は、この五則を体得し、教



▶講義風景・日曜勉強会



▶地域演習・区内遺跡にて



▶地域演習・古民家にて

師こそ天職と思える立派な教師として巣立ってほしいと願うもので、当館の教育内容の根本となるものです。この教師五則を実現するため、全講座を通じて、5名の元小学校長からなる指導教官が五組（二組5名から6名）に分かれて、きめ細かな指導を行っています。具体的なカリキュラムの内容は以下のとおりです。

【講義】毎月第一土曜日の午前中、教育界だけでなく経済界、スポーツ界など各界の第一人者を教授として招聘し、講義を行っています。また、第二・三日曜日の午前中には日曜勉強会として、田口佳史理事長や私が年間を通じたテーマに沿った講義を実施しています。講師の様々な人生経験・人生哲学に触れることで塾生各々が人間の幅を広げ、人間力を高めることができよう、講義後には必ず塾生同士のディスカッションを行い、決して聴き放しにならないよう努めています。



▶教育実習報告会

【演習】毎週土曜日に行う演習の狙いは、実践的な指導力や地域に根ざした教師、地域への愛着心を育てることにあります。具体的には、以下

のように週毎に異なるテーマを設けて指導しています。第一週（午後）は、午前中の講義を受け、各組別にグループ討論を行い、講義の内容を深めます。第二週は、地域の文化や歴史を学ぶ地域演習を行っています。これは、自ら研究テーマを設定し、フィールドワークやインタビュー取材を通して、地域の歴史や文化を現地

▶体験活動・トイレ清掃

現場で感じ取り、地域の課題を探り、自らその課題解決のために何ができるか考え実践します。そして最終的には、研究の成果を報告書にまとめるという問題解決型の演習で、当館の「目玉」の一つでもあります。この地域演習によって、「杉並区の教師になる」という自覚の涵養や、実際に教員になってからの地域とのつながりの足がかりを築き、また地域の皆様にとっても「地域ぐるみで教師を育てよう」という意識を持っていただけではないかと考えます。第三週は、特別演習として、現役の小学校長や教員を招聘し、各教科の実践的指導技法、学級経営や校務、教員服務等について学びます。第四週は、教員ゼミ・学習会として、各指導教官のもと、例えばいじめ・不登校への具体的な対応策、保護者とのコミュニケーションの取り方、成績表のつけ方など、教師として必要なスキルについて、細かい点に立ち入った指導をしています。また特に近年、特別支援教育の充実が叫ばれており、今年度からは養護学校の実習など特別支援に関する演習も新たに導入しています。

解決することで、「教師になる」ことを明確に自覚することになります。

【合宿・体験活動】夏期には杉並区立の教員研修施設において合宿を行い、野外活動に関する指導や、現地のフィールドワーク、教師としての力量が問われるような問題対処や、児童指導に関して難しい場面のロール・プレイ等を集中的に行っています。また体験活動として、清掃事務所において実際に収集車に乗車してゴミ収集を行う等の就業体験、上級救命救急講習、危機管理講習、公共施設のトイレ清掃等の奉仕体験も行い、人間力の向上を図っています。

■今後に向けて

当館卒業者が杉並区の教員として、杉並区の新しい学校づくりの中心として活躍することを強く望むことはもちろんのこと、五年後、十年後には東京都、そして日本の教育力向上に寄与することを期待しています。そのためにも、冒頭でも述べた財政権も含めた人事権の移譲に関する問題は、東京23区特別区長会等を通じて国や都に働きかけているところですが、いまだ実現には至っていません。学校現場で区市町村の独自教員が増えることにより、地域に根ざした、よりきめの細かい教育を行うことが可能となります。一刻も早く財政権も含めた人事権の移譲が実現できるよう切に希望するものであります。※当館の塾生を対象に、杉並区教育委員会による小学校教員採用選考が行われます。